

障害児におけるアセスメントのポイント

(児童発達支援 放課後等デイサービス障害児入所支援)

主な話題内容

- ① 児童発達支援センターすぴかの紹介
★未就学の子どもたちの様子
1日の過ごし方
- ② 児童期におけるアセスメントのポイント
- ③ 実際の事例を通じた紹介
年長児2名の実際

①児童発達支援センターすぴかの紹介

宮崎市総合発達支援センター おおぞら



診療部

診断・相談・個別訓練

地域生活支援部

福祉サービスの調整・相談
保育所等への訪問

通所部

児童発達支援センターすぴか
生活介護事業所「宙」

すぴかの子どもたち

- * 2歳～6歳 40名
- * 職員23名
- * 毎日通園
- * 単独通園（バス送迎）
- * 5グループ
発達段階に応じて編成
- * 集団保育を行う



すぴかの子どもたち

- * 発達障がい
- * 自閉スペクトラム症
- * 知的障がい
- * 肢体不自由
- * 重症心身障がい
- * 視覚障がい
- * 聴覚障がい
- * 内部障がい
- * 診断がついていない子ども等



療育方針

乳幼児期に育んでおきたい

「体づくりや基本的な生活習慣、生きる力、あそびを見つけ楽しみを見出す力、人と関わる力をつける」

ゆったりした日課

分かりやすい
環境設定やあそび



小さな集団

大人との密な関係

一日の流れ

9 : 0 0	送迎バス到着 排泄 自由時間
1 0 : 2 0	朝の会
1 0 : 3 0 ～	設定保育
1 1 : 3 0	
1 2 : 0 0	給食 自由あそび 園庭・遊戯室
1 5 : 0 0	帰りの会・降園

土台は楽しい「あそび」

好きなこと、安定してできること
少し手伝えばできそうなことを
繰り返し

結果的に「できた」につながる

行動には理由がある

- ・ 観察し、理由を探る
～つまらない／わからない／感覚／その他
- ・ 自発的に働きかけていることを探る

例えば…濡れたり汚れたりすることを嫌がる

背景は？

- ・ 触ったことがない
- ・ 感触が嫌だ
- ・ 匂いが苦手

など

間接的に触れる

好きなものをきっかけにする

例えば…集団に入らない

背景は？

- ・ ざわざわしているから嫌だ
- ・ 過去にいやな経験をした
- ・ 何をしているか分からない など

一人（少人数）のできる時間をつくる

少し離れた場所に、用意しておく

例えば…すぐ手が出る

背景は？

- ・相手の反応を確認したい
- ・力加減が分からない
- ・イメージが持てない不安、怖さ
（何をするのか分からない）
（何を言われているのか分からない）



ことばで伝えるにはまだ
未熟な場合も多い

- **気持ちの言語化**

危ない行動は止めた上で、代弁と共感の
積み重ね

- **楽しい共通体験を重ねる**

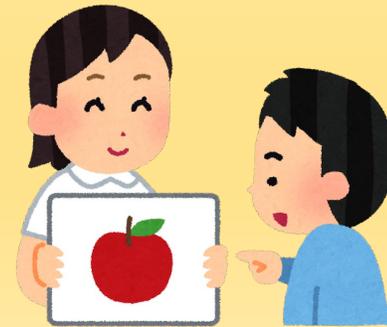
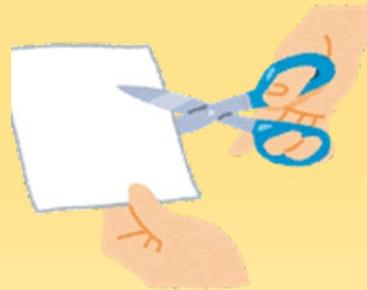
- **「優しく」「力いっぱい」をあそびで経験する**

日課の見直しが必要なこともある

テクニックではなく、子どもの姿から紐解く

「しなくても良い」を保障する

- 「できた」－「できなかった」か
- **その活動を求める発達段階かどうか**
～能力を獲得できる時期がある



子どもの良き理解者に

子どもにとって意味のある存在になる

先生といると何をするか分かる
先生を見ていると楽しいことが出てくる
先生は、困ったら助けてくれる



人から学ぶ土台づくり

「発達障がいのキホンの話～どの子ども園の中で楽しくすごすために」
伊東美和氏講演会資料より

できるところまで。無理はさせず、一緒に楽しむ。

好きなこと 分かることを支援の糸口に

安定してできること
安心できる居場所
信頼できる人 初めて一歩踏み出せる

適切な集団で

やってみようと思える環境で

「わかった」「たのしい」を繰り返す